

# 諸外国におくれをとらない 学校改革を



福島県小学校長会長

佐藤 幹夫

一昨年、教員海外派遣福島県団の団長として、ヨーロッパ二か国（ハンガリー、ドイツ）を訪問する機会を与えていただきました。

ハンガリーでは、幼・小・中・高の四校、ドイツでも幼・小・中・高そして特殊教育学校、大学等七校の学校訪問をしました。

訪問の挨拶とお礼の挨拶は、どこへ行っても私の任務でありました。現地語での挨拶は到底無理なので、『今日は』と『ありがとう』だけは現地語でやろうと心に決めて、事前に調べて出発をしました。

挨拶の頭と終わりには、どこでも現地語を入れました。  
『ヨー ナポト（今日は）』『クツスヌム（ありがとう）』

『グーテン アーベント（今晚は）』『ダンケ（ありがとう）』  
《ハンガリーにて》  
《ドイツにて》

どこでも、笑顔で迎えてくれ、握手で別れを惜しんでくれました。

ドイツでは調子に乗って、  
『イッヒ コメ アウス フクシマ、ヤープァン』  
『イッヒ フロイエ ミッヒ ズイー ケネンツォレルネン』

〔私たちは、日本国の福島県から来ました。皆さんにお会いできて、うれしいです。〕

とまで、やつてのけました。果たして通じたのかどうか、定かではありません。

途中の会話は一切、通訳のカタリンさんと樺島さんにお世話になりました。

高校、大学時代に英語は不得手の方ではなかったはずなのに、会話のできなかったことは悲しいことでした。

いま日本では、学習指導要領の改訂作業が進行中であり、この夏には、教育課程審議会の答申が出され、年内には新しい学習指導要領が告示される運びになっています。

戦後教育五十年、数えて六回目の全面改訂であります。今次改訂の目玉は、「総合的な学習の時間」の創設である